

オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2017 Study of Attitudes Regarding Office Restrooms for All-Gender Use”

オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会(編)

(国立大学法人 金沢大学・コマニー 株式会社・株式会社 LIXIL)

Research Group on Office Restrooms for All-Gender Use (Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

2019年5月



CONTENTS

1 「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について	2
2 調査実施概要	4
3 調査結果報告	12
3-1. トランスジェンダーの割合と職場での状況		12
3-2. オフィストイレの利用実態		20
3-3. オフィストイレの満足度、ストレス・不満点		30
3-4. オフィスにおける「多機能トイレ」の利用状況		43
3-5. オフィスにおける「男女共用個室トイレ」の可能性		47
3-6. 男女共用トイレのサイン、多機能トイレのサイン		62
3-7. トランスジェンダーに対するシスジェンダーの意識		65
3-8. ダイバーシティに対する企業の取り組みへの意識		76
4 補足資料（調査関連補足、用語解説、参考文献等）	79

1. 「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について

オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会について

国立大学法人 金沢大学、コマニー株式会社、株式会社LIXILの3者による、産学共同研究会です

研究会からのメッセージ

トイレ利用は、人間の尊厳にも関わる人権のひとつでもあります。本研究は、研究会メンバー3者の知見を掛け合わせることで、「オールジェンダーに対してあるべきオフィストイレ」を追求し、すべての人々のトイレ利用に関する人権が尊重される社会環境実現の一助となることを目指しています。

基本的には利用者一人ひとりの性自認とプライバシーが尊重され、利用者の意思に沿う選択肢があること、さらにそれらを利用しやすい環境を整えることが重要です。さらに、オフィスのように特定の人々が利用する場合は、利用者に寄り添った個別対応も求められます。

そうした社会環境の実現には、設備などのハードを整備するだけでなく、研修等の教育により偏見をなくし、職場のすべての人が正しい知識とダイバーシティ&インクルージョンの視点を持つことも大切です。

ひとりでも多くの人々が、オフィストイレで悩むことがなくなるように願っております。

発足

2017年8月

これまでの
主な活動

➤ 各種学会などにて調査結果を報告

- ・2018年度・19年度 GID（性同一性障害）学会 第20・21回大会
- ・2018年度 日本建築学会大会 建築計画部門
- ・2018年度 日本オフィス学会 第19回大会 など

➤ 「2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたピクトグラム（図記号）のあり方検討事業」の意見交換会に委員として参加

※（公財）交通エコロジー・モビリティ財団の公式サイトに「成果報告書」が公開されています。

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/report/data/2019_03_picto.pdf

➤ 調査結果報告会を実施

・研究者、建築関係者、企業人事担当者、LGBT当事者支援団体等有識者の皆さまを対象に実施（2018年10月15日）